

やすまるかんにんいせき

17. 安丸官人遺跡

所在地：越前市余田町

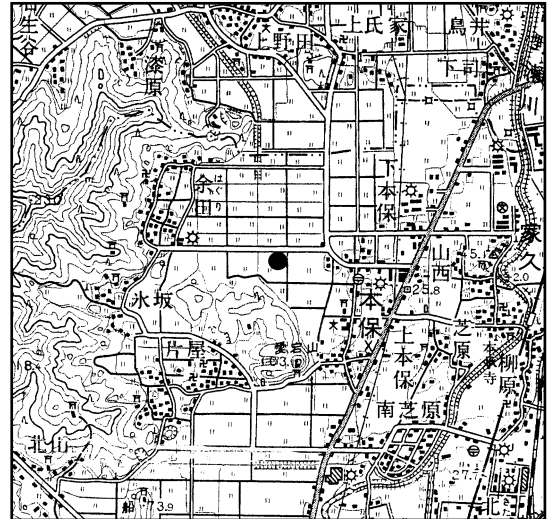
調査原因：都市公園事業（丹南地域総合公園）

調査期間：平成 23 年 6 月 1 日～7 月 29 日

調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

調査面積：780 m²

時代：古代・中世



位置図（S = 1/50,000）

調査の概要 安丸官人遺跡は、日野川が形成した扇状地・沖積地から成る南越盆地西部、2基の前方後円墳を含む愛宕山古墳群の北東に位置します。平成 20 年度の発掘調査で、古墳時代と古代の掘立柱建物を各々 1 棟と旧河道などを確認しており、古墳時代・古代・中世の遺物が出土しています。今年度は、公園の内野スタンド基礎部分と雨水排水管部分の調査を行いました。遺跡の旧地形は、微高地と旧河道からなり、緩やかに南方に傾斜します。土層の堆積は、微高地では耕作土の下には遺物を含む黒色土があり、その下に当時の生活の様相を確認できる面が続きます。

遺構 旧河道 1 条と溝 4 条が主な遺構です。雨水排水管部分で確認した旧河道は、幅約 8 m、深さ約 80 cm を測り、厚く堆積した砂質の埋土からは、常時、水が流れていた様子が窺えます。この河道は、調査区中央まで南に流れた後に、東へ方向を変えて調査区東端に抜けていきますが、古代の土器に混じり、中世の遺物が出土していることから、中世まで存続していたことが判断できます。ほかに、古代の遺物を定量含む溝を確認しました。内野スタンド基礎部分では、旧河道から水を引いたと判断できる南北に延びる溝を確認しました。

遺物 出土遺物の大半を占める旧河道出土品は、8～9 世紀の須恵器が多いものの、高台が付く土師質の碗や糸切りの碗も数点出土しました。なお、須恵器には内面に漆が付着したものや、墨で文字などを書いた墨書土器や蓋を硯の代用品とした転用硯などもみられます。

まとめ 東西に細く延びる調査区で、調査面積が狭いために今回の調査区のみでは全体像を明確にできませんが、確認した旧河道の存在から、当地には日野川や吉野瀬川の支流が、愛宕山の東方から北辺を流れていたことを確認しました。また、遺物の出土状況から調査区より北方に古代の集落が展開したことが判明しましたが、平成 20 年度の調査で出土した風字硯や定量の墨書土器、常滑焼の甕や中世前半頃の輸入陶磁器などを合わせた総合的な見解により、遺跡名に含まれる「官人」が何を示すものかを明確にし、様相が不鮮明な「府中」との関連性を検討していくことも必要だと考えます。

（木村孝一郎）



溝 内野スタンド基礎部分（北から）



溝 内野スタンド基礎部分（北から）



全景 雨水水管部分（東から）



旧河道 雨水排水水管部分（北東から）



旧河道 雨水排水水管部分（南東から）



全景 雨水水管部分（北から）